



障がい福祉サービスに従事する職員のための研修 プログラムの開発 -WHO-DAS2.0の実践への適用をめざして-

著者名：松本将八¹ 筒井孝子² 木下隆志²

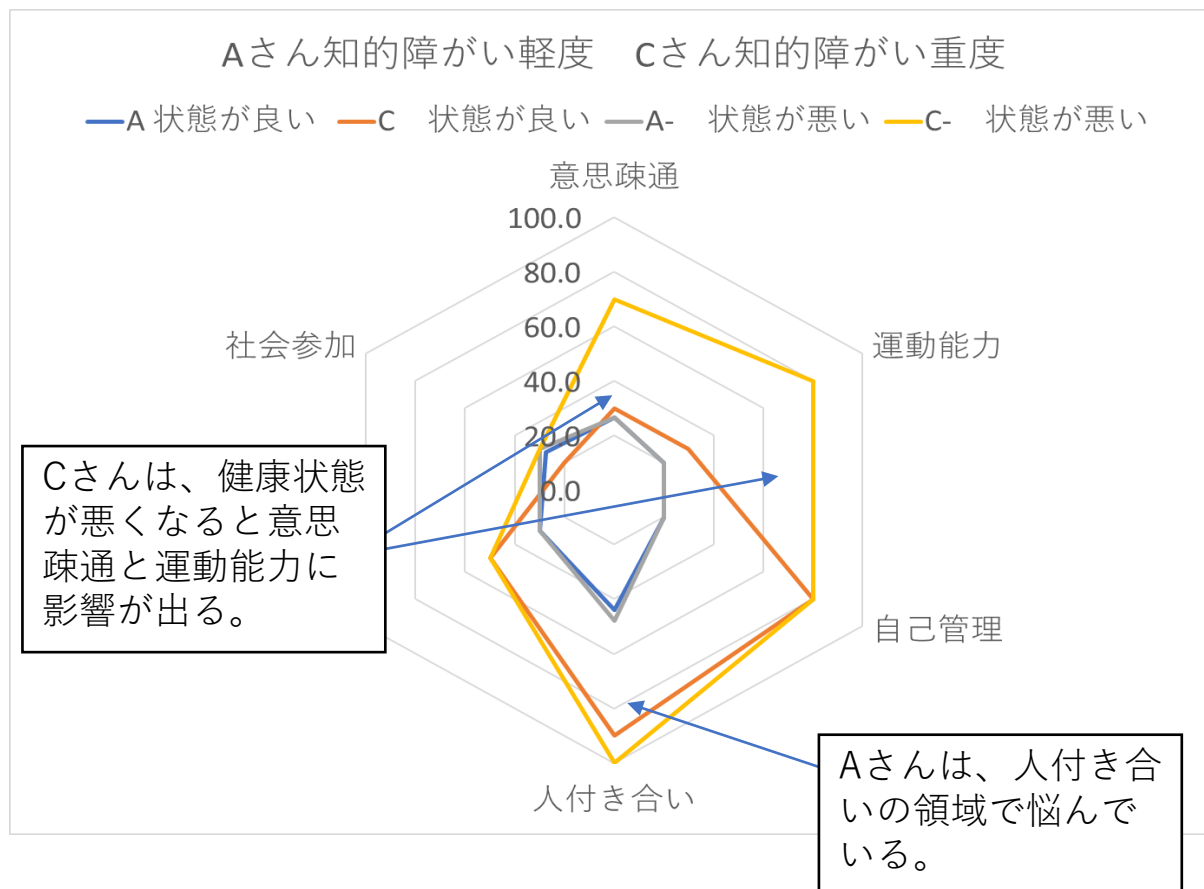
1 NPO法人こぐまくらぶ、2 兵庫県立大学大学院



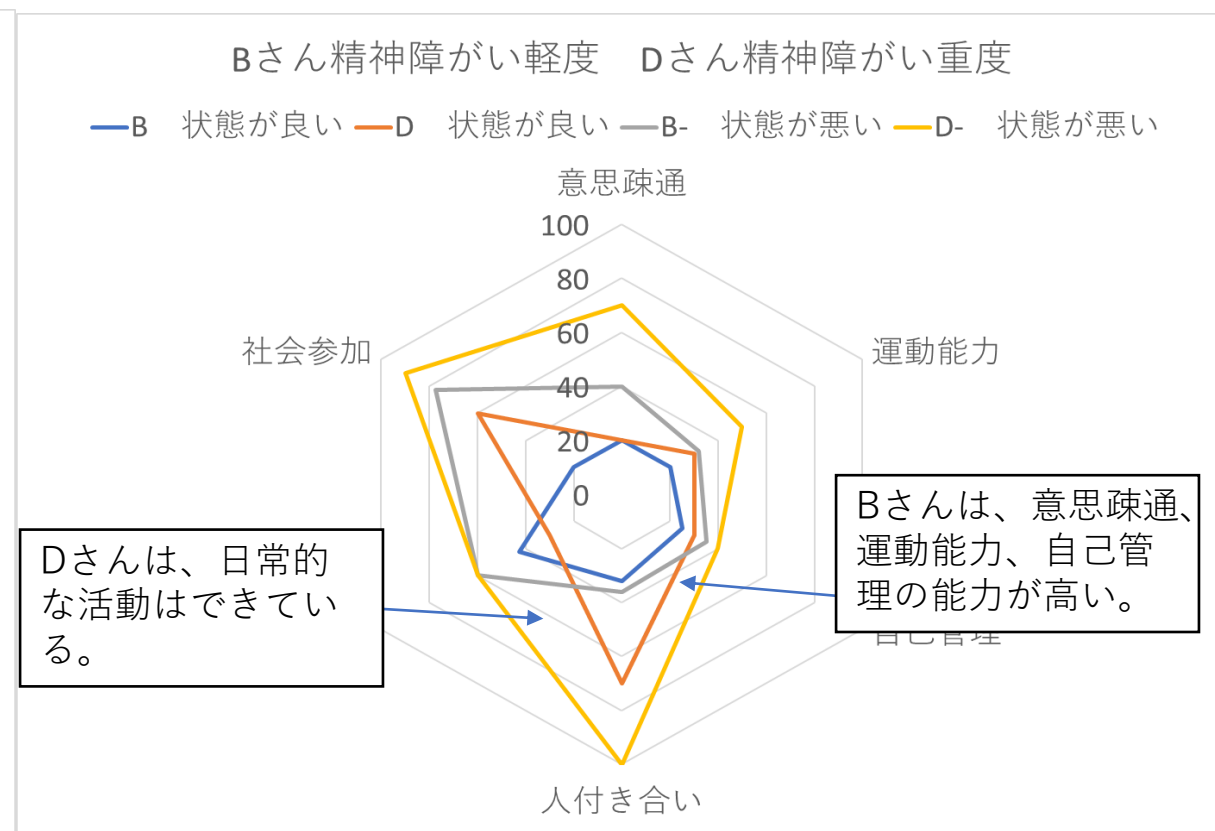
背景①

これまで、WHO-DAS2.0を用い、支援を必要とする障がい者の状態像を可視化するための研究を行ってきた。この結果として、下図に示したように、例えば、知的障がいの軽度Aと重度C（図表1）、精神障がいの軽度Bと重度D（図表2）の状態像をレーダーチャート上に「見える化」できるようになった。

図表1



図表2



運動能力、自己管理を支援するサービスが必要か？

社会参加、人付き合いを支援するサービスが必要か？



研究目的と概要

WHO-DAS2.0は、ICFの概念的枠組みを基礎とし、ICFの「活動と参加」の構成要素に関係づけられた理解と意思の疎通・運動能力・自己管理・人付き合い・日常の活動・社会参加の6領域の能力を測定するツールである。これまでの研究成果からは、このアセスメントツールの利用に際しては、ICFに関連する項目の意味や、利用にあたって留意すべき事項を理解するための研修や学習プログラムが必要となることがわかっている。

今回の報告では、WHO-DAS2.0の理解を深めるための職員の研修プログラムを検討するにあたり、職員のWHO-DAS2.0を構成する項目の意味に関する理解度や、実際にどのように活用しているかを調査した結果を示し、今後の学習や研修の在り方を考察した。

研究方法

1) 研究対象

NPO法人こぐまぐらぶの就労継続支援B型と生活介護サービス利用者の支援をしている10名の職員。
職種は、サービス管理責任者で、すべて常勤職員であった。

2) 研究方法

就労継続支援B型では、36項目版での評価票、生活介護では12項目版の評価票をサービス管理責任者が代理人記入方式を採りながら、利用してきた。ただし、WHO-DAS2.0の規定にある30日以内の記録という要件に関しては、実務上の観点から、180日以内の記録に基づき評価している。

本調査においては、職員に対して、障がい福祉サービスで義務化されている個別支援計画書へ活用できるか、また、この計画書作成に際して、障害種別や障害支援区分別に考慮すべき点があるか等についてを調べた。



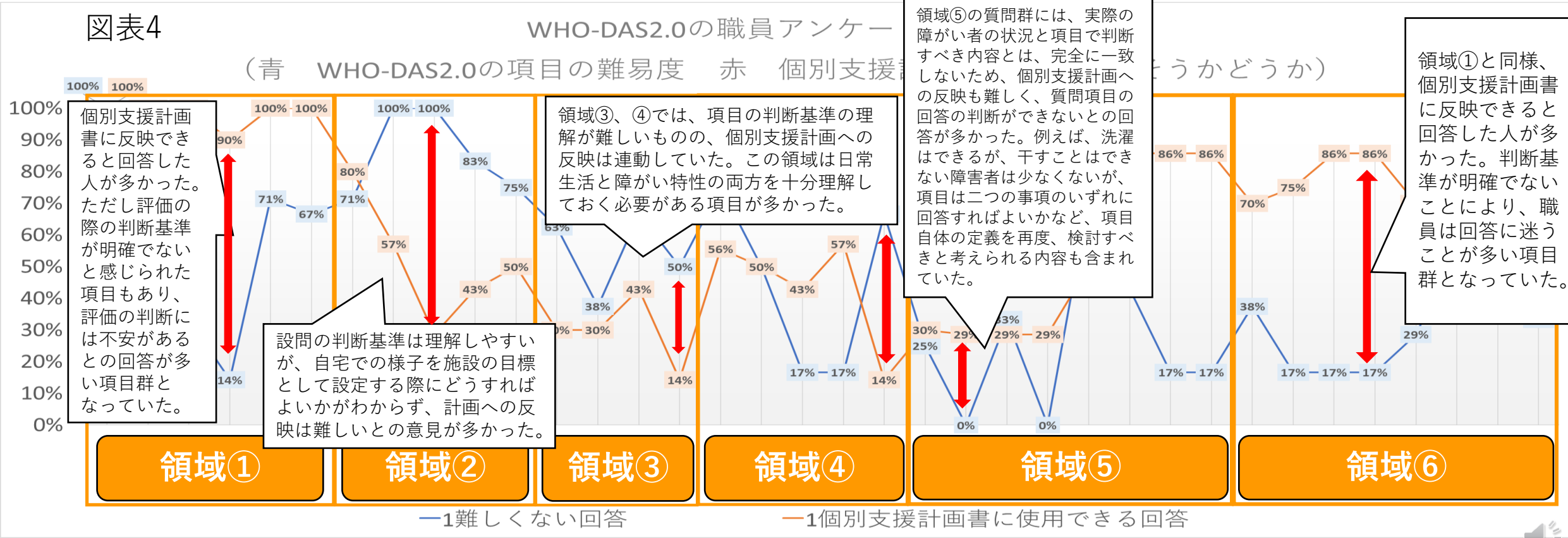
結果

領域①「理解と意思の疎通」・領域②「運動能力」・領域③「自己管理」・領域④「人付き合い」・領域⑤「日常活動」・領域⑥「社会参加」の6領域の項目（参考資料参照）のうち7項目の（図表3）結果を示した。青がWHO-DASの判断の難易度であり、これらの項目の判断が難しくないと職員の回答割合と、赤が個別支援計画に使用できると回答していた割合を示した。

図表3 WHO-DAS2.0 職員向けアンケート結果 N=10(36項目.7名 12項目.3名)

①WHO-DAS2.0の項目の難易度	1 1 難しくない	2 どちらでもない	3 難しい
②個別支援計画に使用できそうかどうか	1 出来る	2 どちらでもない	3 出来ない
③あなたが精神障がいの方の個別支援計画を作成する際に考慮した項目になりましたか	1 はい	2 少し	3 全くない
④あなたが知的障がいの方の個別支援計画を作成する際に考慮した項目になりましたか	1 はい	2 少し	3 全くない
⑤支援区分によって回答が異なりますか	1 はい	2 少し	3 全くない
⑥あなたが障がい重度の方の個別支援計画を作成する際に考慮した項目になりましたか	1 はい	2 少し	3 全くない
⑦あなたが障がい軽度の方の個別支援計画を作成する際に考慮した項目になりましたか	1 はい	2 少し	3 全くない

図表4



結果

解説1

下図の「精神（知的）障がいのある人と知的障がいのある人への個別支援計画書を作成する際に考慮したか」とは、職員が支援計画を作成する際に、WHO-DAS項目の回答結果を参考にしたかを具体的に項目別に問うた結果である。

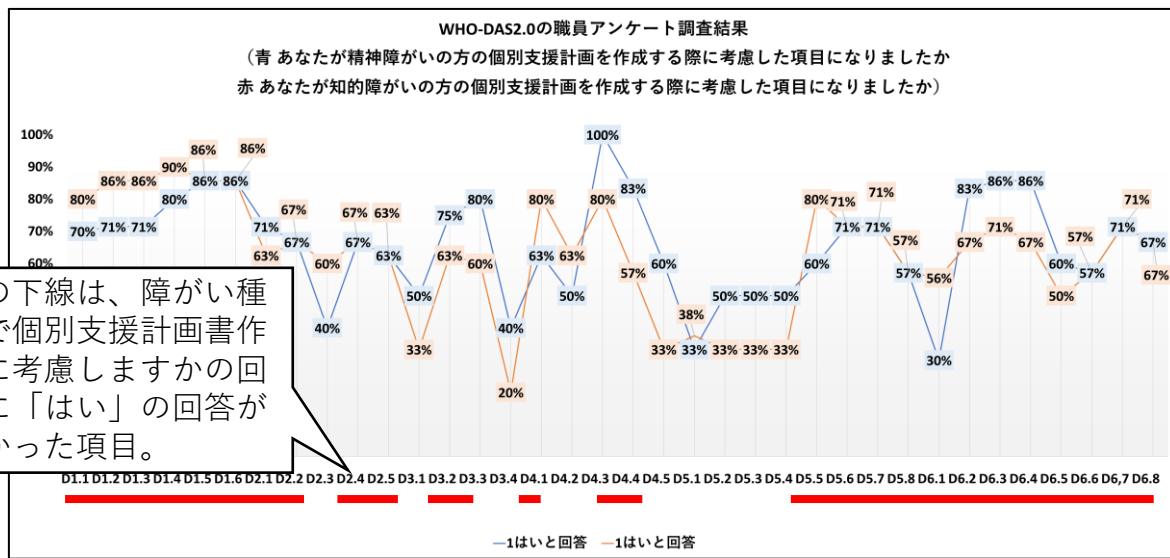
図表5は、参考にした項目として、精神障がい及び知的障がいの障がい別に顕著な違いはなかったことを示している。また、両障がいに共に、考慮しなかった項目としては、D2.3（あなたの家の中で移動しますか）、D3.1（全身を洗う）、D3.4（数日間1人で過ごす）、D4.5（親密なスキンシップ）、D5.1~D5.4（自宅での家事の活動について）が示された。

一方、参考にした項目は、図表5の赤ラインで示した領域①の6項目、領域②のD2.1、D2.2、D2.4、D2.5、領域③のD3.2、D3.3、領域④のD4.1、D4.3、D4.4、領域⑤のD5.5~D5.8、領域⑥すべての項目であった。

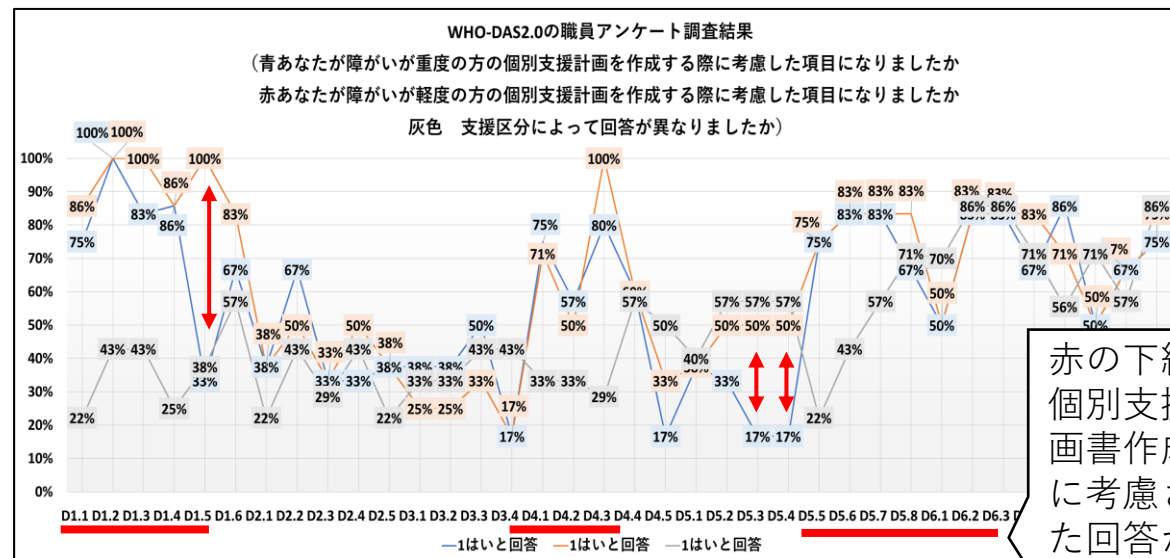
図表6「障がい重度の人と軽度の人で個別支援計画の作成の違い」については、D1.5（人々が言っていることが何かを普通に理解する）、D5.3（あなたに必要なすべての家事を済ませることは出来ますか）、D5.4（必要に応じて出来るだけ手早く家事を済ませることが出来ますか）らの項目は、軽度の方のみ、計画に反映された項目となっており、障がいのレベルによって、計画への反映が異なる項目となっていた。

また、D1.1~D1.5（集中することや覚えること等）、D4.1~D4.3（他者とのコミュニケーション等）、D5.5~D5.7（事業所での活動等）、D6.2~D6.3（身の回りや人のバリア等）は、障がいの軽度・重度に関係なく参考にされており、とくに重度に関してはD1.2（重要事項を行うことを覚えておく）が参考にされていたことがわかった。

図表5



図表6



考察と結論

WHO-DAS2.0の使用に際しての項目の判断基準の理解（難易度）と個別支援計画書への反映されている項目が明らかにされた。

1) 領域①のD1.4（新しい課題を学ぶ）の項目のように評価基準を十分に理解していないため、職員はこの判断が正しいかに不安があることから、個別支援計画に反映できないことがわかった。このことから、アセスメントの具体例や質問の解釈に関するマニュアルを作成する必要があると考えられた。

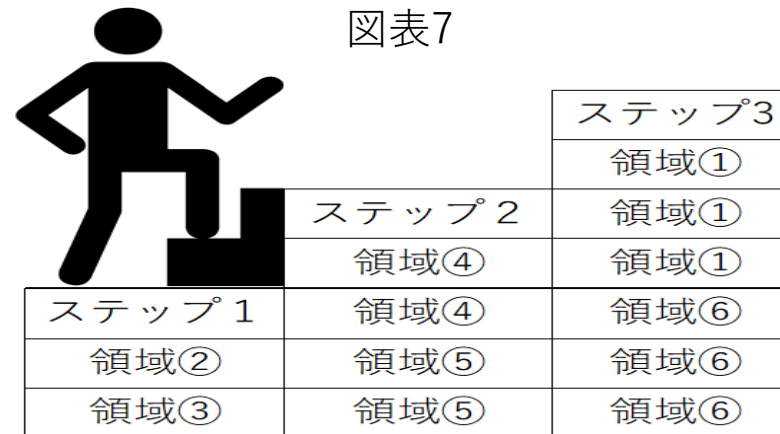
2) 領域②のD2.3（あなたの家の中で移動しますか）、D3.1（全身を洗う）、D3.4（数日間1人で過ごす）、D4.5（親密なスキンシップ）、D5.1~D5.4（自宅での家事の活動について）といった利用者の家庭での活動の情報を、いかに施設の個別支援計画に反映すべきかがわからないとの回答となっていた。しかし、通所事業所で家庭内の活動をアセスメントすると、より利用者の状況がわかり、これらの項目から得られた情報は、居宅介護や共同生活援助等の支援サービスにも利用でき、有用であることが考察された。このため、これらの項目の正しい評価のためのガイドラインの作成が求められていることがわかった。

3) 障がい種別や障がいの程度によって、支援計画に反映できる項目には、違いがあった。今回の結果を基に、障がい種別、障がいの程度別の反映したほうがよいと考えられる情報を整理し、現在の計画との整合性を分析することで、個別支援計画作成のためのWHO-DAS利用マニュアルの作成を検討できるのではないかと考えられた。

以上の研究結果から、WHO-DAS2.0の研修プログラムを構築する際に、どの領域の項目群の評価の情報に重点をおくべきかが整理された。また、領域②と③の項目は、その判断基準は理解しやすいものの、個別支援計画へ反映するためには、障がい者固有の特性や、居住環境への配慮がされなければならない、事業所独自のマニュアルの整備が必要であることがわかった。

今後の課題として、現行のガイドラインを改定し、研修プログラムを構築できれば、障がい福祉サービスに従事する職員への教育ツールとなる可能性があると考えられた。

図表7



参考資料 WHO-DAS2.0の36項目

領域1 理解と意思の疎通
D1.1 10分間何かを行うことに集中する
D1.2 重要事項を行うことを覚えておく
D1.3 日常生活上において問題の解決方法を発見する
D1.4 新しい課題を学ぶ（例えば、新しい場所への行き方を学ぶ）
D1.5 人々が言っていることが何かを普通に理解する
D1.6 会話を始めて、継続できますか
領域2 運動能力
D2.1 30分程度の長い時間たっていますか
D2.2 腰掛けた状態から立ち上がれますか
D2.3 あなたの家の中で移動しますか
D2.4 家の外に出る
D2.5 1キロメートルくらい（またはこれ相当）の距離を歩きますか
領域3 自己管理
D3.1 全身を洗う
D3.2 自分で服を着る
D3.3 食事をする
D3.4 数日間1人で過ごす
領域4 人付き合い
D4.1 知らない人とのやり取り
D4.2 友人関係を維持する
D4.3 親しい人々と交流する
D4.4 新しい友人を作る
D4.5 親密なスキンシップ

領域5 日常の活動
D5.1 自分の受け持つ家事を行う
D5.2 今、あなたにとって最も重要な家事をうまくやっていますか
D5.3 あなたに必要なすべての家事を済ませることは出来ますか
D5.4 必要に応じて出来るだけ手早く家事を済ませることが出来ますか
D5.5 仕事または学校での日々の活動を行う
D5.6 あなたにとって、最も重要な仕事または学校の課題を済ませましたか
D5.7 あなたが必要な仕事または学校でのすべての仕事を済ましたか
D5.8 必要に応じて、行うべき仕事を出来るだけ手早く済ませましたか
領域6 社会参加
D6.1 他の人と同じ方法で地域の活動に参加するのに、どれだけ問題がありましたか
D6.2 あなたの身の回りに生じた障害（バリア）、妨げによって、どれだけ問題を抱えましたか
D6.3 他人の態度と行為によって、あなたの尊厳が傷つけられたことが、どれだけありましたか
D6.4 健康状態またはその改善のために、どれだけ時間を費やしましたか
D6.5 あなたの健康状態によって、どのくらい感情に影響を受けましたか
D6.6 あなたの健康状態は、あなたやあなたの家族にどれくらいの経済的な損失をもたらしましたか
D6.7 あなたの健康上の問題によって、家族がどのくらい問題を抱えましたか
D6.8 自分で、リラックスや楽しみをしようとしたときに、どれだけ問題がありましたか

